

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 大学生部門

●審査員 A

本日 16 通りのエチュードを聴かせて頂き、皆さんが素晴らしい指のテクニックをお持ちだということは全く疑う余地がありません。しかし、ショパンのエチュードについて申し上げるならば、「エチュード」という面よりも「ショパン」であるということのほうがもっと重要であることを忘れないでください。これらのエチュードは速いノクターンだと考えてみてください。そうすれば、天才によって作曲されたこれらの音楽の本質を失うことはないでしょう。

●審査員 B

いきなりエチュードでも大破することなく、ハイスピードの演奏が多かったので、よく練習されていると思う。ただ、エチュードの速い音型もショパンの音楽では旋律なので、陰影をつけて、ラインをもっと歌ってほしい。縦の線もそろってもなく、もっと和声を感じてほしい。

自由曲は、皆、流れよくまとまっていた。ただ、心からの歌が感じられる演奏が少なかったと思う。歌心はあってもタッチが浅く表面的か、立派な音だが乱暴になるか二極化しているので、基本のレガートタッチをもう一度、皆、学んでほしい。

●審査員 C

一番感じたことは、音色の多様さがもっと欲しいということでした。それと、「自身で何を伝えたくてこう弾く」という部分が足りないのは残念に思いました。音で語る…このことは難しいかもしれませんが、ショパンの場合、一番大切なことなのです！

●審査員 D

全体的なレベルは高かったと思います。ショパンのエチュードはどの曲も違った難しさがあります。自由曲の方はうまく表現できていてもエチュードに苦戦されていた方が何人か見受けられました。

共通して望むことは、より音楽を立体的に構築してほしいと思います。多声的な魅力をふんだんに引き出してください。

●審査員 E

- ・よく弾いてらっしゃるのですが、ピアノの奥深くまで音を響かせる音色の変化に対する心配りがもっとあり、楽器の良さを充分に出してほしいと思います。
- ・また、楽譜に書かれている多くのことを忠実に守って弾きながら、ショパンに寄り添い、その中から自分の話したい感じたことを演奏してほしいと思います。
- ・テクニックに一生懸命で拍の感じ方がうすい方もいらっしゃいました。

この先、世の中に出る大学生の皆さまには、良い音楽、芸術を多く見聴きし、飛び立ってほしいです。

●審査員 F

- ・速いパッセージになると、指が先に動いてしまって自分の音が聴けなくなってしまうことが多く、メッセージ性が弱くなってしまふのが残念に感じた。
- ・よく勉強されていて、やろうとしている音楽の方向性には良い場合でも、実際に出せている響きとはギャップを感じるが多かった。思いをピアノに向けるだけでなく、ピアノから返ってきた音をもっとよく聴く必要があると感じた。
- ・楽譜からもっと良い響きを引き出せることの勉強が求められると思う。そしてそれがショパンの真の表現につながると思う。
- ・ショパンへの愛を感じる演奏が多く、嬉しく思った。